様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年５月２０日現在

研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2006～2008
課題番号：１８５２０１４８
研究課題名（和文）　上方役者絵の国内外所蔵調査とデータベース化の基礎的研究
研究課題名（英文）　Fundamental research and database management on Kamigata(Kyoto and Osaka) actor prints in museums of the world

研究代表者
北川　博子（KITAGAWA HIROKO）
関西大学・博物館・研究員
研究者番号：３０４２５０６１

研究成果の概要：
役者絵研究は江戸に力点が置かれ、上方絵の体系的な調査・データベース化は立ち後れていた。本研究では、国内外の美術館・博物館所蔵の上方役者絵について、実地・図録類・ホームページ等で調査を行い、演劇の専門的知識を必要とする上演情報についても資料照合の上で考証してデータベース化した。実地調査の結果は各所蔵機関へ報告したが、当初約 10,000 件のデータが終了時には約 24,000 件となり、上方役者絵研究は世界的規模で大きく前進した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	1,500,000	0	1,500,000
２００７年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２００８年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	570,000	3,970,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学・近世文学
キーワード：芸術諸学、近世演劇、浮世絵、国文学、国際研究者交流、アメリカ、ヨーロッパ

１．研究開始当初の背景

(1)歌舞伎・役者絵研究における江戸と上方

江戸時代の歌舞伎研究は、江戸に重点が置かれ、特に、文運東漸以後の上方には、総じて低い評価しか与えられず、研究者不足も相まって研究の立ち後れが目立っていた。

また、歌舞伎が舞台芸能である以上、歌舞伎台帳（台本）の文学的研究はもちろんのこと、役者の演技・演出研究には、絵画資料である役者絵の活用が必要不可欠である。従って、近年、歌舞伎研究における役者絵の活用が見直されつつある。

しかし、役者絵はもちろんのこと浮世絵全体の中で上方絵を体系的に捉えようとしたのは、昭和 4 年の黒田源次編『上方絵一覧』以降、同 40 年代以降の一連の松平進の研究まで空白期間があった。従って、江戸絵については、共同研究の成果として体系的なデータベースが作成されつつあったが、上方については、松平進や本研究代表者の北川博子が編者となって、早稲田大学演劇博物館、阪急学園池田文庫、甲南女子大学図書館等の所蔵目録を図録として発行していたのであった。

しかも、松平進没後は北川博子のみが演劇の専門的知識を駆使しての研究を行っているのが現状であった。

(2)世界的調査の必要性

このように、国内では研究が立ち後れている分野であるが、上方絵は海外では「Osaka Prints」と呼ばれ関心が高い。それは、明治維新後、浮世絵の海外流出が進み、欧米の主たる美術館・博物館には数多くの上方絵が収蔵されているからである。洗練された江戸絵とは異なり、写実的で工芸的な趣のある上方絵は欧米人の関心を引いていた。

しかし、国内外の浮世絵の所蔵目録が完備している美術館・博物館でさえ、上方役者絵の詳細なデータは付されていないのが現状であった。それは、役者絵が、演劇の専門的知識を必要とし、版行当時の上演資料である番付類を照らし合わせて、上演年月、地域、劇場、外題、役名・役者名などを考証しながらデータ作成をしなければならないからである。

従って、できるだけ多くの所蔵機関の作品を調査し、データベースを構築することなしに、上方役者絵研究の未来はあり得ないのであった。

２．研究の目的

(1)所蔵データベースの作成

このように、各機関の所蔵情況を総合的に網羅したデータベースの作成・公開は、世界の研究者や美術館・博物館が強く望むところであった。本研究では、公開済のデータ蓄積は当然のこと、所蔵情況が明らかでない国内外の所蔵機関を調査の上、上方役者絵の所蔵目録のデータベースを作成し、情報発信することを目的とした。

しかも、単なる所蔵目録ではなく、美術品として必要な判型・摺・続枚数、続き方、落款、絵師、摺師・彫師、版元、画中文字といったデータに加え、演劇の専門的知識を駆使して、上演年月、地域、劇場、外題、役名・役者名といったデータを作成して歌舞伎研究への貢献を目標とした。

(2)「大坂」という視点

近世文化の研究は、上方に比べ江戸の方が進んでいることは先述したとおりである。しかも、江戸と上方という対比はあったが、大坂と京都をひとまとめに「上方」として論じることが多かった。そのことで大坂と京都の各々の都市が持つ文化の独自性が理解されずにきたのである。

しかし、大坂と京都で版行された役者絵を見ていくと、かなり大きな違いがあることがわかってきた。従って、データベースに「地域」という項目を加え、大坂独自の浮世絵のあり方を追求していくことにした。そうすることで、京都で版行された浮世絵の意義も明らかになることは言うまでもない。

(3)版元の研究

役者絵の版行を行った版元の動向を把握することは、大坂が商業都市・文化都市両方の側面を持ち合わせていたことへの理解へと繋がる。役者絵の版行には、絵師の思惑だけではなく、常に版元の意図が存在している。本研究で作成するデータベースは、版元検索が可能であるので、浮世絵をはじめ、江戸時代の出版物研究への寄与も目的とした。

(4)海外との連携

欧米の美術館には、上方役者絵の所蔵がかなり多いことは、国際日本文化研究センターの調査（日文研叢書 1～6）や『浮世絵大観』全 16 巻（講談社刊）でも知られていたが、一点一点の作品についてのデータにはかなり不備が目立っていた。

また、網羅的な調査が始まったボストン美術館には、約５万点の浮世絵のうち、かなりの上方絵があることがわかってきたが、調査団に上方絵を専門とする研究者がいなかったこともあり、それらの全貌については不明な点が多かった。

本研究では、過去の調査の再検討と、新しく所蔵が知られるようになった機関の実地調査を行い、国際的な情報交換の場を設けることを目的とした。

３．研究の方法

(1)入力データの見直し

本研究開始時に、約 10,000 枚の上方役者絵のデータを入力していたが、それらを含め、追加のデータに対しても、随時、新しい資料や情報により見直しを図った。

(2)図録からの入力

詳細な上演情報が付加されている図録についても見直しを図りながらデータを構築していった。また、画像や簡単なデータのみしか備わらない図録に関しては、考証をしながら入力を行った。入力を行った図録は以下の通りである。

①国内

・『上方浮世絵２００年展』（展覧会図録）
・『前期上方絵』上・下、『後期上方絵』
　（早稲田大学演劇博物館）
　Web サイトと併用
・『上方役者絵集成』第１～５巻
　（阪急学園池田文庫）実地調査と併用
・『合羽摺の世界』（阪急学園池田文庫）
　実地調査と併用
・『上方錦絵図録』（甲南女子大学図書館）

実地調査と併用
・『国立劇場所蔵芝居版画図録』Ⅱ～Ⅹ
（国立劇場）
・『上方役者絵の世界』
（住まいのミュージアム）
・『石川県立美術館所蔵品図録　久世重勝氏収集浮世絵版画』（石川県立美術館）
実地調査と併用
・『久保恒彦父子コレクション浮世絵版画』
（和泉市久保惣記念美術館）
実地調査と併用
・『蔵品図録　第一集（浮世絵版画篇）』
（奈良県立美術館）実地調査と併用
・『浮世絵』（たばこと塩の博物館）
実地調査と併用
・『KABUKI HEROES（邦題：『大坂歌舞伎展』）
（イギリス＆日本・展覧会図録）
実地調査と併用

②海外
・『浮世絵聚花』全18巻（小学館刊）
・『浮世絵大観』全16巻（講談社刊）
・日文研叢書『プーシキン美術館所蔵日本美術品図録』、『エルミタージュ美術館所蔵日本美術品図録』、『ナープルステク博物館所蔵日本美術品図録』、『プラハ国立美術館所蔵日本美術品図録』、『フェレンツ・ホップ東洋美術館所蔵日本美術品図録』（国際日本文化研究センター刊）
・『在独日本文化財総合目録　1
（ハイデルベルグ民族博物館）』
・『Protagonisti del Palcoscenico di Osaka』
（イタリア・各美術館）
・『Osaka-Holzschnitte』
（ドイツ・リュウルコレクション）
・『Helden Schurken Kurtisanen』
（ドイツ・リュウルコレクション）
・『The Theatrical World of Osaka Prints』
（アメリカ・フィラデルフィア美術館）
・『The Male Journey in Japanese Prints』
（アメリカ・サンフランシスコ美術館）
Webサイトと併用
・『Masterful Illusions:Anne van Biema collection』
（アメリカ・サックラーギャラリー）
・『Dramatic Impression』
（アメリカ・アーサーロスギャラリー）
・『Hirosada Osaka Printmaker』
（アメリカ・展覧会図録）
・『Osaka Prints』（アメリカ）

(2)Webサイトからの入力
図録からの入力と同じ方針で、以下のWebサイトから入力を行った。
・関西大学　実地調査と併用
・立命館大学アート・リサーチセンター
・東京都立中央図書館　実地調査と併用
・早稲田大学演劇博物館　図録と併用
・静岡県立中央図書館
実地写真閲覧と併用
・アメリカ・ボストン美術館
実地調査と併用
・アメリカ・サンフランシスコ美術館
図録と併用

(3)実地調査
所蔵は確認できるものの、その状況が全く不明の機関や、文字のみの目録が出されている機関はもちろんのこと、図録やWebサイトが備わる所蔵機関でも、許可が下りる場合は、できるだけ実地調査に赴き、現物確認を心がけた。実地調査を行った機関は以下の通りである。調査にはノートパソコンを持参し、その場でデータを作成、年次や上演情報が未確定のものは、後日、入力データに基づき、考証を行ってデータを完備していった。

①国内
・阪急学園池田文庫　図録と併用
・甲南女子大学図書館　図録と併用
・東京都立中央図書館
Webサイトと併用
・静岡県立中央図書館　写真閲覧
Webサイトと併用
・名古屋テレビ放送株式会社
・西尾市立岩瀬文庫
・千代田区立四番町歴史民俗資料館
・大阪府立中之島図書館
・たばこと塩の博物館　図録と併用
・石川県立美術館　図録と併用
・東京国立博物館　写真閲覧
・千葉市美術館
・長崎歴史文化博物館　画像＆図録閲覧
・福岡市博物館
・奈良県立美術館　図録と併用
・大坂城天守閣
・和泉市久保惣美術館　図録と併用
・上方浮世絵館
・大阪歴史博物館
・関西大学図書館　Webサイトと併用
・園田女子学園大学近松研究所

②海外（アメリカ）
・ハーバード大学サックラー美術館
・ボストン美術館　Webサイトと併用
・イースト・ウエストセンター
・ホノルル美術館

４．研究成果
研究当初は約10,000件であったが、終了時には約24,000件のデータとなった。また、役者絵を中心に調査研究を行ったが、遠方の機関については、役者絵の他、風景画や美人

画なども調査の対象としたので、今後、上方浮世絵全体に研究を広げる地盤となった。なお、本研究途中にも新たな収蔵情報が数多く集まり、当初予定していた機関より多くの収蔵状況を把握することができた。

上方浮世絵を所蔵する機関には専門の学芸員がいないため、本調査研究により初めて詳細なデータが備わった所も多い。各機関の学芸員との意見交換では、関西圏での連携展示や国内外から名品を集めた「上方浮世絵展」の開催など、研究の集大成でありながら、啓蒙的な展覧会開催の必要性を論じた。

本研究の調査については、実地調査を行った機関には直接報告を行っているが、全所蔵先を網羅したデータベースについては、希望者に対してデータの送付を行っている。

以下、特徴的な所蔵機関のコレクションについて報告したい。

(1)関西圏の状況

上方役者絵は京都と大坂で版行された浮世絵であるので、必然的に関西での現存率が高い。今後、それぞれの館の特徴を生かした協力関係が望まれる。

①阪急学園池田文庫

歌舞伎資料として収集された約 7,500 枚の役者絵は、世界一のコレクションとされている。上方浮世絵の初期にあたる寛政から文化初頭の作品が少なく、それ以降の役者絵に関してはほぼ網羅的に所蔵している。なお、本研究終了とほぼ同時期に 2 箇所から約 800 枚の役者絵が寄贈され、コレクションは今なお成長を遂げている。そのほとんどが、幕末から明治にかけての役者絵であるが、今後も引き続き調査研究を行いたい。

②甲南女子大学図書館

京都の旧家に残ったコレクションで、文化文政の作品、約 700 枚からなる。役者絵が多いが、その他にも、現存が極めて珍しい柱絵（未裁断）や風景画、美人画などがある。手擦れがあるものの色あせが少なく、ここにしか見られない作品も多い。

③武庫川女子大学関西文化研究センター

上方役者絵としては、初期に当たる寛政・享和の流光斎・松好斎の細判 11 作品がある。昭和初期の収集家岡田伊三次郎氏旧蔵のもので、近年センターの所蔵するものとなった。寛政から文化にかけての細判に関しては、早稲田大学演劇博物館所蔵『許多脚色帖』が最も多く収載しているが、人物のみを切り抜いている場合が多く、11 枚であっても完全図としては世界一のコレクションである。

④大阪城天守閣

南木芳太郎の旧蔵で、保存状態がやや劣るものの、文化から明治にかけての役者絵が約 800 枚ある。このコレクションについては、役者絵だけでなく、風景画、美人画など上方浮世絵が偏りなく所蔵されているのが特徴であるので、今後も引き続き調査研究を行いたい。

⑤大阪歴史博物館

約 400 枚の役者絵がある。明治の名優でありながら、上方絵に描かれることの少ない初代中村鴈治郎の役者絵が 10 数点もあるのが特徴的である。画帖については、文字目録では個々の作品に言及されていなかったので、今回の調査で詳細が明らかになった。風景画や美人画、新聞錦絵なども多く、今後も引き続き調査研究を行いたい。

⑥大阪府立中之島図書館

大和銀行の補助金により購入された画帖に約 250 枚の役者絵が収載されている。これも個々の作品については未発表で、今回の調査で詳細が明らかになった。風景画については今後も引き続き調査研究を行いたい。

⑦上方浮世絵館

個人運営の館で、約 800 枚の役者絵は文化から明治までのものである。今回の調査研究で詳細が初めて明らかになった。

⑧和泉市久保惣記念美術館

2006 年に久保恒彦父子から寄贈された浮世絵の中に約 130 枚の上方役者絵がある。天保 10 年代の長谷川貞信らによる保存状態の良い作品が充実しているのが特徴である。その他、上方風景画も多い。なお、2009 年には更なる寄贈を受け、コレクションは成長を遂げ続けているので、今後も引き続き調査研究を行いたい。

⑨立命館大学アート・リサーチセンター

HP で画像検索が行える。センター立ち上げから約 10 年の間に吟味しながら収集した形跡が伺える。特に旧岡田伊三次郎氏所蔵を土台にした合羽摺のコレクションは秀逸で、枚数としての約 140 枚は世界一であるが、さらにその数を増やしている。なお、京都に因みにある浮世絵を積極的に収集しており、役者絵以外の作品も多い。今後も引き続き調査研究を行いたい。

⑩関西大学図書館

初代から三代目長谷川貞信コレクションが秀逸である。貞信は今日まで名跡が残る上方絵師であるが、役者絵を中心にさまざまな浮世絵を手がけているので、今後も引き続き調査研究を行いたい。その他にも、役者絵の画帖が数点あるが、そのうちの 2 点については、2006 年、北川博子編『上方役者絵画帖』を発行している。

(2)その他国内

調査範囲については、「研究の方法」で述べたが、その中で特徴的な機関について、以下に述べたい。

①千葉市美術館

浮世絵の収集については定評のある美術館であるが、上方役者絵についても、スイス

から里帰りした流光斎の細判作品や、他に収蔵を知らない文化期の六角団扇大首絵点など珍しい作品が揃う。中判の画帖も極めて保存状態が良い。
②石川県立美術館
　久世重勝氏寄贈の浮世絵の内、約 250 枚が上方絵である。図録も版行されているが、上演情報などは付されておらず、今回の調査研究で詳細が明らかになった。
③静岡中央図書館
　図書館ながら浮世絵の収蔵がある。幕末から明治の中判作品を中心に約 80 枚の上方役者絵があるが、今回の調査研究で詳細が明らかになった。
④福岡市博物館
　旧日本画家吉川観方のコレクションで約 170 枚の上方役者絵を所蔵する。文字目録はあるが、上演情報などが付されていないので、今回の調査で詳細が明らかになった。
⑤長崎歴史文化博物館
　所蔵数は 30 枚ながら、長崎出身の上方絵師柳斎重春の作品を集めていることが特徴的である。

(3)海外
　本研究では、アメリカのボストンとハワイでの調査研究を行った。なお、遠隔地であるため、調査は役者絵だけでなく、上方浮世絵全体にわたって行った。
①ボストン美術館
　約 2,400 枚の上方浮世絵を所蔵する。95%がビゲローコレクションであるが、国内の浮世絵に比べ保存状態が極めて良い。HP でも画像が公開されているが、データに不備が多く、「ボストン美術館所蔵上方絵目録」(『関西大学　なにわ・大阪文化遺産学研究センター 2006』) で本研究の調査報告を行った。なお、この報告により、現在、日本で進められつつある、ボストン美術館所蔵浮世絵約 5 万点の調査団のメンバーに加わることができた。
②ホノルル美術館
　数は 34 枚と少ないが、他に所蔵が知られていないねりもの図 2 点を見出した。これは、美術館では「複製の疑い有り」と別置されていた作品で、本調査により本物であることが確認された。
　また、本研究が「上方浮世絵」という観点で所蔵品を見直す機会となり、常設の日本美術展示のコーナーで、「上方浮世絵展」が開催されることとなった。
③ハーバード大学サックラー美術館
　所蔵数は 8 枚と少ないが、従来、所蔵状況が不明で、今回の調査研究で詳細が明らかになった。
④イースト・ウエストセンター
　ハワイ在住の豊国門人会の解散に伴い寄贈された浮世絵の中に、上方役者絵が 4 枚所蔵されている。従来、所蔵状況が不明で、今回の調査研究で詳細が明らかになった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）
①北川博子「役者と死絵　上方における四代目中村歌右衛門を中心に」、『国文学　解釈と鑑賞』第 73 巻 3 号、p. 189～196、査読無、2008 年
②北川博子「上方役者絵に見る稲荷と狐」、『朱』第 51 号、p. 183～196、査読無、2008 年
③北川博子「浮世絵に見る祇園ねりもの」、『浮世絵芸術』第 155 号、p. 38～53、査読有、2008 年
④北川博子「ボストン美術館所蔵上方絵目録」、『関西大学 なにわ・大阪文化遺産学研究センター 2006』、p. 85～128、査読無、2007
⑤北川博子「一枚摺・役者絵等からみた演博蔵『許多脚色帖』の編纂」、『歌舞伎　研究と批評』第 36 号、p. 75～89、査読有、2006 年

〔学会発表〕（計 3 件）
①北川博子「読本『浪華侠夫伝』における歌舞伎摂取の手法―「けいせい筥伝授との関係を中心に―」、日本近世文学会、2008 年 9 月 27 日、北海道大学
②北川博子「『祇園神輿洗ねりもの姿』図について」、国際浮世絵学会、2007 年 11 月 17 日、日本女子大学
③北川博子「『嵐橘三郎』の創出とその襲名」、芸能史研究会、2006 年 6 月 4 日、キャンパスプラザ京都

〔図書〕（計 3 件）
①.国際浮世絵学会編(小林忠・北川博子他、編集委員 15 人中 9 番目、執筆者：133 人中 49 番目)東京堂出版、『浮世絵大事典』、2008、658 頁
②河竹登志夫監修・古井戸秀夫編、白水社、『歌舞伎登場人物事典』、今岡健太・児玉竜一、北川博子他（執筆者：50 人中 21 番目）、2006、1086 頁
③北川博子編、関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター、『関西大学図書館所蔵上方役者絵画帖』（なにわ・大阪文化遺産学叢書 1）2006 年、64 頁

６．研究組織
(1)研究代表者
北川　博子
関西大学・博物館・研究員
研究者番号　３０４２５０６１